

大村市の将来像

～行きたい、働きたい、住み続けたい～

しあわせ実感都市 — 大村

基本目標①

人を育むまち

- ・子育てしやすいまちづくり
- ・豊かな学力と生きる力を育む教育の充実
- ・文化の振興と生涯学習の充実
- ・国際・地域間交流の推進

基本目標②

健康でいきいきと暮らせるまち

- ・健康づくりの推進と医療体制の充実
- ・高齢者が暮らしやすいまちづくり
- ・障がい者が暮らしやすいまちづくり
- ・暮らしのセーフティネットの充実

基本目標③

安全・安心なまち

- ・災害に強いまちづくり
- ・消防・救急体制の充実
- ・交通安全と消費者保護の推進
- ・犯罪のないまちづくり

基本目標④

活力に満ちた産業のまち

- ・魅力ある農林水産業の振興
- ・活力ある商工業の振興
- ・企業誘致の推進と新たな雇用の創出
- ・歴史や自然を活かした観光のまちづくり

基本目標⑤

機能的で環境と調和したまち

- ・コンパクトで暮らしやすいまちづくり
- ・道路網の整備と公共交通の利便性の向上
- ・快適で暮らしやすい都市環境の整備
- ・環境にやさしいまちづくり

基本目標⑥

持続可能な行財政運営と市民協働の推進

- ・効率的で開かれた行政運営の推進
- ・健全な財政運営の推進
- ・地域コミュニティの活性化とみんなで取り組むまちづくり
- ・お互いを尊重し、誰もが活躍できる社会づくり

本市は、海と山に囲まれた豊かな自然環境と、交通の要衝としての都市機能が調和する中で、これまで県央の中核的な都市として着実に発展してきました。

全国的に人口減少が進む中、本市では人口が増加しています。現在、九州新幹線西九州ルートなど高速交通網の整備も進んでおり、これをまちづくりの好機と捉え、さらなる市の発展と人口増加を見据えたさまざまな施策を推進していかなければなりません。

また、少子高齢化や経済のグローバル化など社会情勢が大きく変化する中で、地方でも子育て支援の充実、地域社会のにぎわい創出、安全・安心なまちづくりなど、魅力ある地方都市の実現に向けた新たな取り組みが求められています。

このため、行政運営の基本指針として、いる「第5次大村市総合計画」において、本市が目指す将来像を「行きたい、働きたい、住み続けたい、しあわせ実感都市大村」と掲げ、市民の皆さまの多様なニーズに応えながら、赤ちゃんからお年寄りまで、誰もがしあわせを実感できるまちづくりを進めます。



大村は笑顔がいっぱい

鈴田地区(どん牛山)から大村市街地を望む



人口10万人を目指して

大村市はこれまで、空港や高速道路など高速交通の要衝としての充実した都市機能を背景に、快適で暮らしやすいまちづくりや子育て支援の充実などに取り組んできました。その結果、県内13市で唯一人口増加を続けています。しかしながら、国立社会保障・人口問題研究所によると、本市も2025年をピークに人口減少に転じると推計されています。

今後、さらなる人口増加を図るためには、これまでの取り組みをさらに充実させ、定住促進とともに、進学・就職に伴う若者などの流出を抑制する必要があります。

このため市は、2025年に人口10万人を目指す「大村市人口ビジョン」、**「大村市まち・ひと・しごと創生総合戦略」**を策定しました。新工業団地整備による雇用の確保や新幹線を活かしたまちづくりなどに取り組み、「行きたい！働きたい！住み続けたい！」まちの実現に向けて、住み心地のよい魅力あるまちづくりを進めています。

人口推移

総人口は、自然増と社会増により増加を続けてきましたが、2005年から鈍化しつつあります。また、これまで出生数が死亡数を上回ってきましたが、少子高齢化を背景に出生数の減少・死亡数の増加が続き、2020年には死亡数が出生数を上回り、自然減となりました。

